

魚種（海域）：ヒラメ（日本海～津軽海峡海域）

担当水試：中央水産試験場

### 要約表

評価年の基準 (2010年度)	資源評価方法	2010年度の 資源状態	2010～2011年度 の資源動向
2010年8月1日 ～2011年7月31日	漁獲量	中水準	横ばい

\*生態については、別紙資料「生態表」を参照のこと。

## 1. 漁業

### (1) 漁業の概要

日本海から津軽海峡にかけての海域のヒラメは、刺し網類、建網類、曳網類による漁業や釣りなどの自由漁業により、5～7月には産卵群、10～12月には索餌群が対象に漁獲される（図1）。海域別にみると後志総合振興局の積丹地区以北（北部海域とする）では刺し網類、神恵内地区以南から津軽海峡にかけては（南部海域とする）建網類による漁獲が多く、釣りなどの自由漁業によっても漁獲される（図2）。資源管理協定により1995年以降では全長35cm未満の個体の水揚げが制限されている。

### (2) 現在取り組まれている資源管理方策

未成魚保護のための資源管理協定に基づく全長制限：全長35cm未満の漁獲があった場合は、海中還元等の措置を講ずる。

また、栽培漁業対象魚種として1996年より本格的な種苗放流（年間220万尾放流）が行われており、2002～2009年（1～12月）の混獲率は北部海域で4.3～14.0%、南部海域で5.9～12.1%である<sup>1)</sup>。

## 2. 評価方法とデータ

### ・漁獲統計の集計

1985年8月から2010年12月については漁業生産高報告を用い、2011年1～7月については水試集計速報値を使用した。海域を漁法の特徴から2つに大別して、稚内地区以西の宗谷総合振興局から後志総合振興局の積丹地区までを北部海域、後志総合振興局の神恵内地区から渡島総合振興局の榎法華地区（八雲町熊石地区を含む）までを南部海域とした。

## 3. 資源評価

### (1) 漁獲量および努力量の推移

1985年度からの漁獲量は700トン前後で推移している。最低値は1985年度の454トンで、最高値は1999年度の1,343トンである（表1、図3）。最高値を記録した1999年度

から 2004 年度まで減少傾向で推移し、その後、2007 年度にかけて増加した。2008 年度、2009 年度と減少したが、2010 年度は増加し 858 トンとなった。

## (2) 現在(評価年)までの資源状態

資源量の動向は不明であるが、漁獲量の推移は、1990 年代半ば以降、緩やかな増減を経つつも平均的には 700～800 トン前後の水準を維持していることから、近年の資源水準は、一方向的に増加、あるいは減少しているような状況にはなく、比較的安定して推移していると考えられる。

## (3) 評価年の資源水準：中水準（図 4）

1990～2009 年度の漁獲量の平均値を 100 として±40 の範囲を中水準、それより上下を高水準、低水準と定義した。2009 年度の水準指数値は 109 となり、資源水準を中水準と判断した。

## (4) 今後の資源動向

漁獲量は 1997 年度以降、1999 年度を除いて中水準の範囲内で変動している（図 4）ことから、2010 年度から 2011 年度にかけての資源動向は「横ばい」と判断した。

## 4. 文献

- 1) 石野健吾：4.1 ヒラメ放流基礎調査. 平成 22 年度北海道立中央水産試験場事業報告書, 179-183 (2012)

表1 日本海～津軽海峡海域ヒラメ漁獲量（単位：トン）

漁期年	北部海域					南部海域				全海域 合計
	宗谷	留萌	石狩	後志北部	小計	後志南部	檜山	渡島	小計	
1985	8	70	28	77	183	108	85	78	271	454
1986	11	132	59	260	463	148	114	149	411	874
1987	10	111	34	173	328	85	66	111	262	590
1988	9	66	32	137	244	113	134	145	392	635
1989	11	74	22	104	213	75	79	109	263	475
1990	42	149	29	149	369	110	130	84	325	693
1991	57	265	43	197	562	135	156	87	377	939
1992	29	205	33	175	441	128	135	83	346	787
1993	20	134	41	138	333	64	78	59	201	533
1994	13	111	24	136	284	65	92	91	248	531
1995	22	161	34	112	329	85	92	97	274	603
1996	19	131	57	136	343	74	118	112	304	647
1997	51	279	64	159	554	96	118	129	343	897
1998	45	206	74	201	525	133	116	131	380	905
1999	56	293	105	345	798	228	169	148	545	1,343
2000	27	183	73	177	460	118	148	152	419	878
2001	22	132	48	144	346	144	126	164	434	780
2002	47	221	70	108	446	76	98	119	293	739
2003	55	258	39	125	478	94	89	104	287	765
2004	74	222	47	114	457	81	78	73	231	688
2005	49	218	61	99	427	84	102	100	286	713
2006	35	182	46	156	418	130	124	147	401	819
2007	60	259	60	244	623	124	118	119	362	984
2008	30	198	53	125	406	118	121	113	352	758
2009	40	202	51	124	417	98	90	116	303	720
2010	55	235	59	127	476	140	116	126	382	859

\*2010年度は水試集計速報値

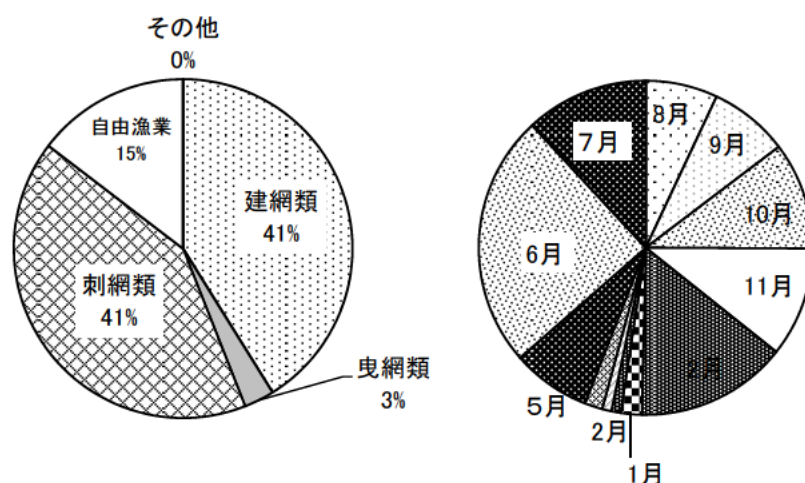


図1 日本海～津軽海峡海域におけるヒラメの漁業種類別(左図)、月別(右図)の漁獲量割合(2006～2010年度の平均比率)

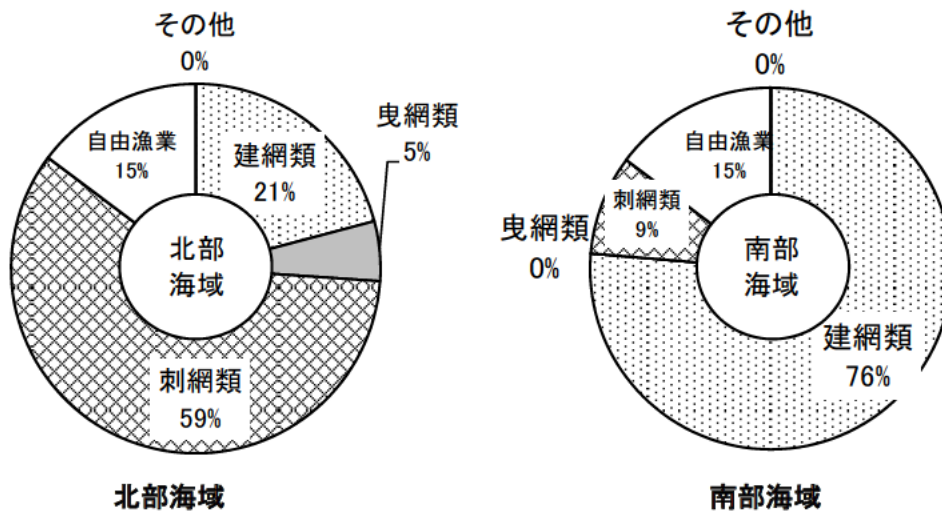


図2 日本海～津軽海峡海域におけるヒラメの海域別の漁業種別漁獲量割合 (2005～2009年度の平均比率)

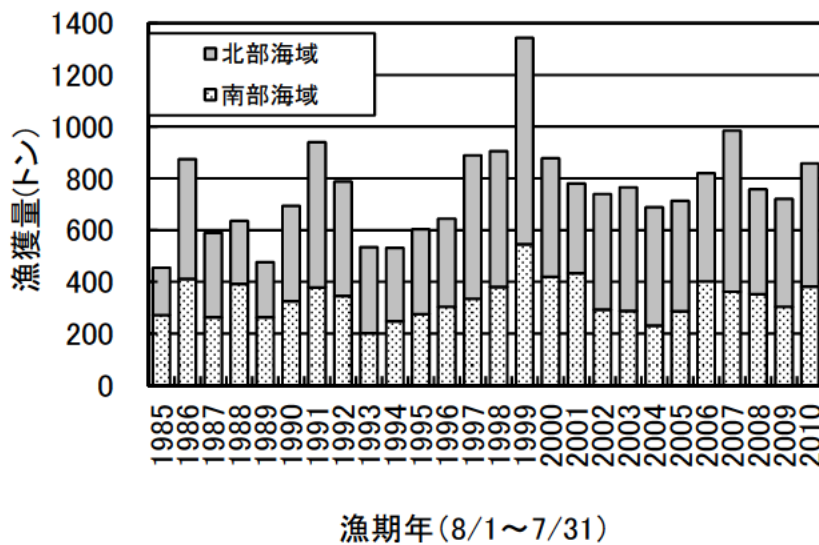


図3 日本海～津軽海峡海域におけるヒラメ漁獲量の推移

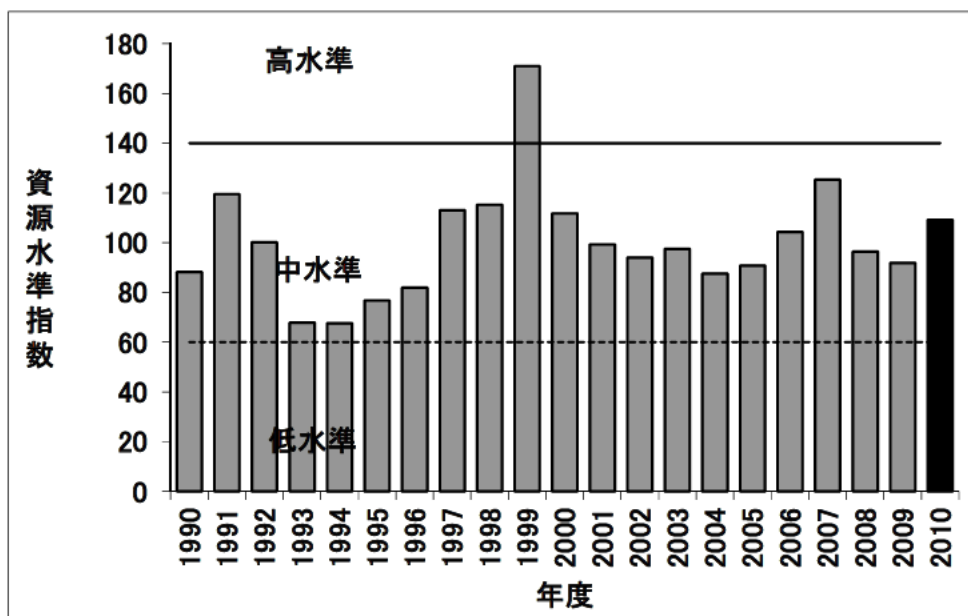


図4 日本海～津軽海峡海域ヒラメの資源水準  
(資源状態を示す指標：漁獲量)

## 生態表

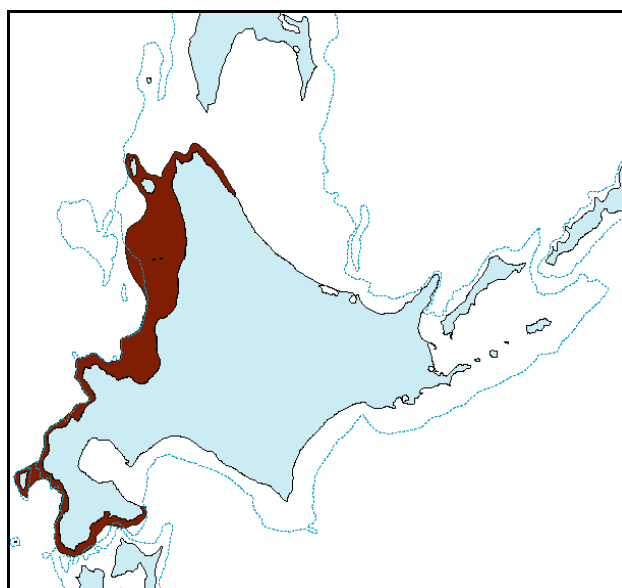
魚種名：ヒラメ海域名：日本海～津軽海峡海域

図 ヒラメ（日本海～津軽海峡海域）の漁場図

## 1. 分布・回遊

宗谷総合振興局オホーツク海側から道西日本海，津軽海峡を経て胆振総合振興局・日高振興局海域に分布し，日本海と津軽海峡で主に漁獲される。季節的な深淺移動を行い，水温が上昇する春季に浅海域に移動し，秋季には沖合に分布域を移す。また，9月までは北方向への移動傾向を示し，11～12月には南下する個体が増大する。

## 2. 年齢・成長（加齢の基準日：8月1日）

（8月時点）

満年齢		1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳
全長(cm)	オス	21	33	40	44	47	48			
	メス	22	36	46	53	58	62	65	67	68
体重(g)	オス	71	316	586	794	933	1,019			
	メス	165	779	1,688	2,667	3,572	4,337	4,952	5,430	5,792

（1996～2001年の漁獲物測定資料および試験調査船おやしお丸の標本）

## 3. 成熟年齢・成熟体長

- ・オス：2歳から成熟する個体がみられ，全長29cm以上で半数以上の個体が成熟する。
- ・メス：2歳から成熟する個体がみられ，全長41cm以上で半数以上の個体が成熟する。

## 4. 産卵期・産卵場

- ・産卵期：6月～8月である。
- ・産卵場：水深20～50mである。

## 5. その他

なし

## 6. 文献

なし